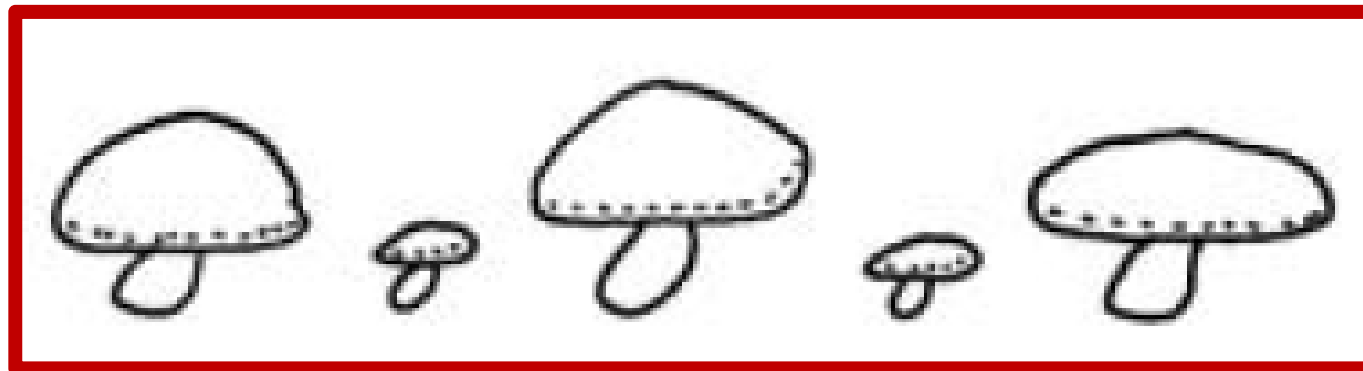


みんなのデータサイト ネット購入キノコプロジェクト測定結果



みんなのデータサイトキノコプロジェクトチーム

大沼章子(C-ラボ)

なぜ ネット購入キノコプロジェクト に取り組んだか

みんなのデータサイトでは、日常的な測定の中で、**野生の食品の汚染度が高い**ことを知り、データサイトで知らせてきた。

また、東日本17都県土壌ベクレル測定プロジェクトの結果をまとめたマップ集の中でも、詳しく述べた。

近年、ネットでの食品購入も盛んになってきた。そこで、特に季節の食品として、野生キノコは森林の多い地方から都会の消費者に提供されるようになった。**顔の見えない関係での売買での実態を探るために、**このプロジェクトに取り組んだ。

みんなのデータサイト ネット購入キノコプロジェクトの概要

期間: 2020年10月11日ー11月30日

プロジェクトチーム測定室と測定装置(6測定室)

- ・あがの市民放射線測定室「あがのラボ」: ATOMTEX社製AT1320A
- ・森の測定室 滑川: ATOMTEX社製AT1320A
- ・・那須希望の砦: ATOMTEX社製AT1320A
- ・日本チェルノブイリ連帯基金-Teamめとば: 日立ALOKA社製 CAN-OSP-NAI
- ・未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター(C-ラボ): 日立ALOKA社製 CAN-OSP-NAI
- ・認定NPO法人 ふくしま30年プロジェクト:ゲルマニウム半導体検出器核種分析装置
PGT社製 NIGC16190SD

みんなのデータサイト ネット購入キノコプロジェクト キノコの放射性セシウム濃度測定結果

種類	件数	検出件数 * 1	検出率 (%)	最大値 (Bq/kg)	中央値 (Bq/kg)	食品基準超え件数	食品基準超え率 (%)
天然生	109	91	83	1833	17.0	23	21
天然乾燥	13	13	100	88730 (乾重量当り)	397 (乾重量当り)	6 * 2	46
栽培生	8	5	63	27.4	1.3	0	0
天然加工	4	2	50	4.2	1.1	0	0
まとめ	134	111	83	-	-	-	-

* 1 検出下限値以上の濃度(最小値は0.33 Bq/kg)を示す件数

* 2 乾燥キノコの場合は、厚生労働省が示すその他キノコの乾燥による重量変化率4.0を基に、食品基準を400 Bq/kg乾とした。

参考)天然乾燥キノコ(13件):コウタケ12, イワタケ1

栽培生キノコ(8件):シイタケ(1)、ナメコ(4)、ムキタケ(1)、ヒラタケ(2)

天然加工キノコ(4件):サクラシメジ・アマタケ・ナラタケの塩蔵各1、クリタケ水煮1

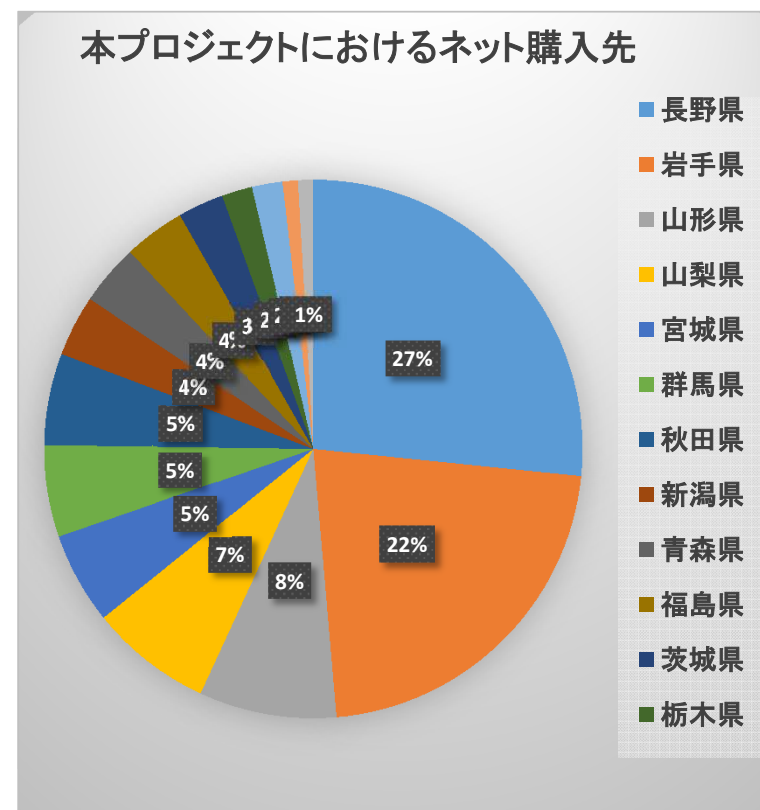
天然生キノコ:別記

・基準値超えは生キノコ21%、乾燥キノコ46%で、乾燥キノコの方が高い傾向にあった。乾燥キノコの92%(12/13)はコウタケであった。

・栽培キノコや加工キノコには、基準値超えはなく、濃度も低い傾向にあった。

みんなのデータサイトネット購入キノコプロジェクト 天然生キノコの採取県別放射性セシウム濃度測定結果

採取県	件数	最大値 (Bq/kg)	中央値 (Bq/kg)	食品基準 超え件数	食品基準 超え比率 (%)
茨城県	3	509	266	3	100
群馬県	6	486	139	3	50
福島県	4	218	83.0	2	50
岩手県	24	244	62.1	8	33
宮城県	6	1833	29.9	2	33
長野県	29	222	16.3	4	14
栃木県	2	18.6	9.3	0	0
山梨県	8	37.1	6.0	0	0
新潟県	4	8.6	5.8	0	0
山形県	9	145	3.9	1	11
北海道	2	1.7	1.3	0	0
秋田県	6	12.0	1.3	0	0
東京都	1	-	0.9	0	0
神奈川県	1	-	0.8	0	0
青森県	4	0.6	0.0	0	0
まとめ	109	1833	17.0	23	21



・基準値超えがあった都県は多い順に、茨城・群馬・福島・岩手・宮城・長野・山形であった。

* 表は、キノコの放射性セシウム濃度の測定結果について、採取県別に中央値の高いものから記載した。
なお、測定結果が1件のみのキノコの放射性セシウム濃度は中央値欄に示した。

食品基準100 Bq/kgを超えて放射能セシウムが検出されたキノコ



コウタケ



サクラシメジ



ウラベニホテイシメジ



バカマツタケ



ショウゲンジ



クロカワ



オオシメジ



アミタケ



ハナイグチ

* 最大値1833 Bq/kgを示したコウタケは 測定件数が18件と最も多く、食品基準の100 Bq/kg超えの比率も61%と高く、複数検査が可能であったキノコのうち基準値超えが最も多かった。

みんなのデータサイトきのこプロジェクト: 基準値超えネット購入天然生キノコ採取地・菌種・出荷制限の状況など

ネット購入天然生キノコ名	放射性セシウム (Bq/kg)	採取場所		菌種による区分		出荷制限の状況 * 1		
		県名	市町村名	菌根菌	腐生菌	出荷制限 * 2	出荷自粛	摂取自粛
コウタケ	1833	宮城県	気仙沼市	○	×	○ * 3	×	×
サクラシメジ	509	茨城県	常陸太田市	○	×	○	×	×
ウラベニホテイシメジ	486	群馬県	利根郡川場村	○	×	×	×	×
バカマツタケ	452	宮城県	気仙沼市	○	×	○ * 3	×	×
コウタケ	402	群馬県		○	×	7市町村○/35	×	×
コウタケ	266	茨城県	常陸太田市	○	×	○	×	×
コウタケ	244	岩手県	遠野市	○	×	○	×	×
コウタケ	222	長野県	北佐久郡立科町	○	×	×	×	×
コウタケ	218	福島県	郡山市	○	×	○	×	×
コウタケ	216	岩手県	盛岡市	○	×	×	×	×
コウタケ	205	群馬県		○	×	7市町村○/35	×	×
ショウゲンジ	190	長野県	中野市(斑尾高原)	○	×	×	×	×
ショウゲンジ	180	長野県	中野市(斑尾高原)	○	×	×	×	×
クロカワ	169	岩手県	盛岡市	○	×	×	×	×
コウタケ	154	岩手県		○	×	9市町○/33	×	×
コウタケ	145	山形県	山形市	○	×	×	×	×
ムレオオフウセンタケ	137	岩手県		○	×	9市町○/33	×	×
アマタケ	135	茨城県	常陸太田市	○	×	○	×	×
ハナイグチ	133	長野県		○	×	7市町村○/77	×	×
ムレオオフウセンタケ	124	岩手県		○	×	9市町○/33	×	×
クロカワ	110	岩手県		○	×	9市町○/33	×	×
サクラシメジ	106	岩手県	久慈市	○	×	×	×	×
コウタケ	101	福島県	(奥会津)	○	×	×	×	×

注) ○(該当)、×(該当しない)を表示

* 1 <https://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/kinoko/syukkaseigen.html> (20210206閲覧)

* 2 採取市町村名が不明のため、全市町村数に対する○(制限有り)もしくは×(制限無し)の市町村数を表示

* 3 本プロジェクトの測定結果に基づく訴えにより、2020年12月25日に出荷制限が出されたため、採取時は(×)。

・出荷制限地域からの出荷: 22%(5/23)

・出荷制限無し地域からの出荷: 48%(11/23)

・制限の有無不明地域からの出荷: 30%(7/23)

採取場所が明確な基準値超えキノコ、土壌放射性セシウム濃度からの移行係数を見る

採取場所		キノコ放射性セシウム (Bq/kg)	土壌放射性セシウム (Bq/kg) *				土壌からの放射性セシウムの移行係数		
県名	市町村名		調査数	最大値	最小値	中央値	最大値	最小値	中央値
宮城県	気仙沼市	1833	12	1527	79	159	1.2	23	12
茨城県	常陸太田市	509	8	367	6	169	1.4	86	3
群馬県	利根郡川場村	486	2	2297	1015	1656	0.2	0.5	0.3
宮城県	気仙沼市	452	12	1527	79	159	0.3	5.7	2.8
茨城県	常陸太田市	266	8	367	6	169	0.7	45	1.6
岩手県	遠野市	244	9	95	21	47	2.6	12	5.2
長野県	北佐久郡立科町	222	1	-	-	0	-	-	-
福島県	郡山市	218	25	37874	39	2135	0.01	5.6	0.1
岩手県	盛岡市	216	30	223	6	37	1	34	5.9
長野県	中野市	190	1	-	-	101	-	-	1.9
長野県	中野市	180	1	-	-	101	-	-	1.8
岩手県	盛岡市	169	30	223	6	37	0.8	27	4.6
山形県	山形市	145	20	728	24	201	0.2	6	0.7
茨城県	常陸太田市	135	8	367	6	169	0.4	23	0.8
岩手県	久慈市	106	8	59	15	40	1.8	6.9	2.6

*土壌濃度は、データサイト土壌データベースより抽出(放射性セシウム濃度は2020年11月1日に換算した数値)

- ・土壌からキノコへの放射性セシウムの移行係数(キノコ濃度/土壌濃度)は、0.01-86の範囲にあった。
すなわち、地域毎に最大値の土壌の場合:0.01-2.6、最小値の場合:0.5-86、中央値:0.1-12であった。
- ・赤字のデータを異常値として除いたとしても、天然キノコの土壌からの移行係数は、0.1-86であり、放射性セシウム濃度のバラツキが大きいことの一因であった。なお、原木からシイタケへの放射性セシウムの移行係数文献値は、0.24-3.0で、平均値 0.99 ± 0.54 、中央値 0.98 (森林研・根田 2014)

まとめ

- 天然生キノコの規準値超えは23件であった。
- 本調査での規準値超えキノコは全て菌根菌であった。
- 採取場所については市町村名が不明確なものが7件あり、出荷制限の有無が不明の地域からの出荷は30% (7/23) であった。さらに、明らかに出荷制限無し地域からの出荷は48% (11/23) で、出荷制限が明らかな地域からの出荷は22% (5/23) であった。
- 出荷制限のある地域からの出荷は当然禁止されるべきで、行政の監視が不十分で在ることが明らかになった。
- 出荷制限のない地域からの出荷に基準値超えのキノコが含まれていたことは、その地域でのモニタリング検査が不十分である証拠となり、行政の監視が不十分であることを示していた。
- 出荷制限の有無が不明の地域からの出荷は、いずれにせよ行政の監視が甘いことを示すものであった。
- ネット販売サイト・出荷者側の考え方・姿勢に問題がある。検査してから出荷する・検査したものを出品させるという放射能汚染食品に対する流通側の基本が周知徹底されていない。なお、購入側では知ることの困難さもあるが、産地表示のあるものを購入することを心がけてほしい。